

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）  
令和2年度採択テーマ  
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合評価
マルチスケール流域土砂動態モデルの開発と動的土砂災害対策への応用 (研究期間：R2年度～R4年度)	京都大学 准教授 竹林洋史	A
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>TDRによる浮遊砂濃度の観測によって、広い浮遊砂濃度の範囲の観測が容易に実施できるようになったとともに、年間での浮遊砂流出量の把握の可能性が示された。また、土石流モデルと流域土砂動態モデルを連動した解析を行うことにより、土石流渓流からの生産土砂量を土石流による渓床や渓岸の浸食現象により評価可能となった。これにより、土石流渓流からの生産土砂量を合理的に評価できるとともに、砂防堰堤などの土砂流出をコントロールする施設の河道条件に応じた設置場所やタイミングなどを検討することが可能となった。</p>		
<p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>本研究では、土砂動態モデル Morpho2DH と流域土砂動態モデル SiMHiS を連動させたマルチスケール流域土砂動態モデルを開発した。土石流災害が発生した那智川流域における再現計算により有効性を示しており、土砂流出をコントロールする砂防施設の配置検討などへの活用が期待できる。また、TDRによる浮遊砂濃度観測は、流出土砂量の把握に有効な手法になるものと期待できる。</p> <p>今後は、検討事例の蓄積を図り、引き続きモデルの検証を進めていただきたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い